

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【「日本一の文教『都市』」をめざした人材育成の取組と海外人材の活用】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

天王寺区は全国学力学習状況調査では、区全体として大阪市平均を上回る傾向にある。
 だからこそ、学校教育以外の部分である、子どもが社会で生きて行く力を育むための「社会教育」の機会が提供されている状態。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・天王寺区は全国学力学習状況調査では、区全体として大阪市平均を上回る傾向にある。
 - ・区内人口の約46%が40歳未満で子どもや子育て世代が多い。(22年国勢調査)
- (参考)
 ・平成26年10月1日現在年齢別推計人口より:0～19歳人口割合は 24区中5番目

【平成27年度 学校基本調査】

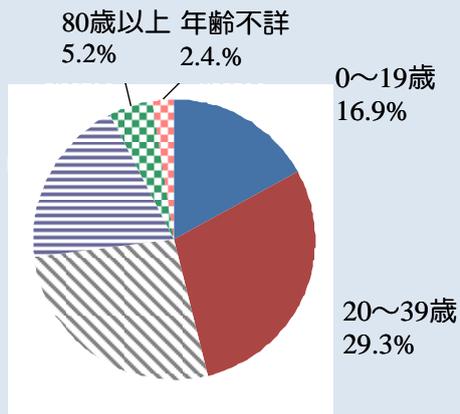
- 中学校数 9校(24区中4番目)
- 中学校生徒数 5,528名(24区中2番目)
- 高等学校数 12校(24区中1番目)
- 高等学校生徒数 16,002名(24区中1番目)
- 高等学校生徒数は、市全体の約20%を占める。

【待機児童数】

- ・平成27年10月1日時点
 天王寺区 19人
 市全体 511人(24区中11番目に多い)
- ・平成27年4月1日時点
 天王寺区 11人
 市全体 217人(24区中8番目に多い)
- ・平成26年4月1日時点
 天王寺区 21人
 市全体 224人(24区中4番目に多い)

【平成27年度「あなたの声をつなげ隊」による意見聴取】

- 天王寺区の未来人材育成施策の主な事業へのご意見(役に立つ・役に立たない)
- 中高生向けインターンシップ 役に立つ:205人(88%) 役に立たない:28人(12%)
 - レジェンド・イン・ハイスクール 役に立つ:200人(86%) 役に立たない:33人(14%)
- ※(%)は総数233人に対する割合



区内人口構成
 (平成22年国勢調査による)

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因＞

- ・教育に対する意識の高い保護者、地域と連携して、これまで努力してきた結果、私立の高等学校など多くの学校園が集積していると考えられる。
- ・区において社会教育事業への期待度が高い。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・子どもへの重点投資のさらなる促進。
- ・社会教育の充実や子育て世帯の負担緩和など、地域特性を活かした未来を担う人材の育成の強化。
- ・子どもの体験活動への参加機会が減少傾向にあることから、子どもや青少年が、様々な体験、世代を越えた交流の機会や地域でのつながりづくりなどを通じて、心身ともに健やかに成長できるような環境整備。
- ・グローバル社会で生きていく力を養う学習機会の提供。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・子どもの将来のための投資促進となるよう実施している子育てスタート応援事業については、さらなる利用率の向上を図るとともに、本事業がその後の教育投資につながるかなどを注視していく必要がある。
- ・「日本一の文教『都市』」をめざし、区役所で取り組む未来を担う人材育成に関する当区事業は順調に執行できているが、参加希望者を対象としたものであり、区内児童・生徒全体の人材育成を効果的に進めるには、学校教育との連携をより一層すすめる必要がある。
- ・そのため、区で実施する人材育成を目的とした事業のほか、区に配付される校長経営戦略支援予算を活用し、学校長・保護者等から教育に関する課題・ニーズを聴取し、優先的に対処すべき課題・ニーズに予算を有効に活用していくことが必要である。

めざす成果及び戦略 2-1 【地域の未来を担う人材の育成】

計画	めざす状態<概ね3～5年間で念頭に設定>	戦略<中期的な取組の方向性>
	アウトカム<めざす状態を数値化した指標>	

自己評価	戦略のアウトカムに対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカムの達成状況		前年度	個別	全体
	英語ディベートスクール参加者の満足度 100%		94%	A	A
	英語体験活動参加者の満足度 93%		—	A	
	自分の将来に役立つと感じるインターンシップ参加者の割合 100%		100%	A	
	乳幼児期から未来を担う人材育成が積極的に進められているまちであると感じる区民の割合 44.5%		45.0%	B	
子育てに必要な情報を必要な時に的確に得ることができていると感じる子育て世帯の割合 97%		62.6%	A		
保育所待機児童が解消された状態の継続		—	B		
戦略の進捗状況	b	a: 順調 b: 順調でない	A: 順調 B: 順調でない		
				今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-1-1 【グローバル人材の育成（英語ディベートスクール、英語体験活動）】

26決算額 4,111千円 27予算額 4,110千円 28予算額 3,000千円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	中学生を対象に実践的な英対話力を向上させるためのディベートスクールを行うとともに、新たに小学生を対象として、英対話力向上の素地を養う体験学習を実施し、意欲的に海外に挑戦し活躍できる人材を育成する。 英語ディベートスクール（中学生） 8回 英語ディベート成果発表会 1回 英語体験活動（小学生） 2回	・ディベートスクール参加者の満足度 90% ・英語体験学習の満足度 70% 【撤退基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。 前年度までの実績 平成27年度 ディベートスクール 12回 国際交流カフェ 6回 成果発表会 1回 ※達成状況 ディベートスクール 94% 平成26年度 ディベートスクール 12回 国際交流カフェ 6回 成果発表会 1回 ※達成状況 ディベートスクール 80%

中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	—	○:有効 ×:有効でないため取組を見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

自己評価	取組実績	課題	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須	
	ディベートスクール 8回 成果発表会 1回 英語体験活動 2回 業績目標の達成状況			
	ディベートスクール参加者の満足度 100% 英語体験学習の満足度 93%	① (i)	改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	○	○:有効 ×:有効でないため見直す —:中間アウトカム未設定(未測定)	

具体的取組2-1-2

【イノベーション人材の育成(中高生インターンシップ、レジェンド・イン・ハイスクール事業)】

26決算額 1,473千円 27予算額 2,191千円 28予算額 2,085千円

計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)
	<<イノベーション人材育成事業>> 中高生向けインターンシップ ・将来の起業家を育成するため、社会で必要となるスキルを養う企業・事業所等でインターンシップを実施する。 参加者数 10名 <<レジェンド・イン・ハイスクール事業>> ・子どもの夢に挑戦する意欲をかきたて、チャレンジ精神あふれる人材の育成を図るために、区内の公立中学生等にスポーツ等の分野で成功を取めた方(元プロ選手など)から部活動において身近に指導を受ける機会を提供する。 年間11回程度 1回あたり2~3時間程度の指導		<<イノベーション人材育成事業>> ・自分の将来に役立つと感じるインターンシップ参加者の割合 90%以上 <<レジェンド・イン・ハイスクール事業>> ・参加生徒の満足度 90%以上 【撤退基準】 <<イノベーション人材育成事業>><<レジェンド・イン・ハイスクール事業>> ・50%未満の場合には事業を再構築する。
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	—	
自己評価	取組実績	① (i)	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	—	
自己評価	取組実績	① (i)	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	—	

具体的取組2-1-3

【次世代の地域担い手の育成】

26決算額 218千円 27予算額 337千円 28予算額 331千円

計画	取組内容		業績目標(中間アウトカム)
	<<天王寺区ジュニアクラブ活動>> 学校・家庭・地域との協働により、小学校4年生から中学・高校生を対象に、地域行事へのボランティア参加や施設体験などを行う天王寺区ジュニアクラブの活動を支援する。 活動 年5回		今後も活動(ボランティア等)に参加したいという会員 90%以上 【撤退基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	—	
自己評価	取組実績	① (i)	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	—	
自己評価	取組実績	① (i)	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	業績目標の達成状況	—	

具体的取組2-1-4 【子どもの将来のための投資の促進】

		26決算額	6,733千円	27予算額	9,294千円	28予算額	12,725千円
計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム） 子育てスタート応援券の利用率（人数ベース）75%以上 【撤退基準】 50%未満の場合には事業を再構築する。					
	天王寺区に生まれた子どもを持つ家庭を対象に、乳幼児期から子どもの体験・教育等の機会を提供する仕組みとして子育てスタート応援券（クーポン券：10,000円分）を交付する。（平成28年度新規対象者数 780名）	前年度までの実績 平成27年度 交付 平成26年度 交付開始 平成25年度 制度案の策定					
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	—				
自己評価	取組実績	子育てスタート応援券の交付 1925名（29年度3月末） 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 利用率は徐々に増加しているが、利用者のニーズに合致したサービスの充実が必要。					
	業績目標の達成状況	子育てスタート応援券の利用率（人数ベース）71.2%（29年度3月末） ② (i) ①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成					
	戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)				
	改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須 利用しやすいサービスの追加や、随時追加されたサービス内容を周知することや、出生届出時に申請を受け付けて3カ月児健診受診時に応援券を交付する等の利用勧奨の機会を増加させ、利用率の向上を図る。					

具体的取組2-1-5 【子育て世帯の支援体制の充実】★

		26決算額	3,476千円	27予算額	2,260千円	28予算額	1,699千円
計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム） ・子育て情報アプリ 利用者満足度 80%以上 ・子育て情報博覧会 参加者の満足度 90%以上 【撤退基準】 ・子育て情報アプリ 利用者満足度が50%未満の場合、事業を再構築する。 ・子育て情報博覧会 60%未満の場合には事業を再構築する。					
	虐待担当者・保育士・家庭児童相談員・保育コンシェルジュのチームが、保健師や栄養士と連携し、こどもの心身の発達・性格行動・しつけ等のさまざまな相談への対応、専門機関や保育所・幼稚園を含む地域の子育て資源に関する情報提供を行う。 随時 ・スマートフォン等の情報端末に対応した天王寺区子育て情報アプリ「ぎゅっと！」により、子育てに必要な情報（区内の保育園や幼稚園、医療機関、イベント情報等）を養育者に配信する。 随時 ・子育て支援施設やサービスの利用促進を図るため、子育て支援機関が子育て世帯に直接取組内容を説明する場を提供するとともに、子育ての専門家等によるワークショップを通じて子育て世帯の交流機会を提供する「子育て情報博覧会」を開催する。 年1回 120世帯	前年度までの実績 平成27年度 ・子育て情報アプリ ダウンロード数 1,635件 機能強化（ツイッター連携、検索機能改善） ・子育て情報博覧会 平成27年9月実施 165世帯参加 ※達成状況88% 平成26年度 ・子育て情報アプリ 平成27年2月配信開始 ・子育て情報博覧会 平成27年2月実施 141世帯参加 ※達成状況65%					
中間振り返り	業績目標の達成状況	① (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性	—	—				
自己評価	取組実績	児童相談件数 526件 子育て情報アプリ「ぎゅっと！」の通年配信 子育て情報博覧会の開催：1回（参加 190世帯） 課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					
	業績目標の達成状況	子育て情報アプリ 利用者満足度 94% ① 子育て情報博覧会 参加者の満足度 94% (i) ①：目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退基準未達成					
	戦略に対する取組の有効性	○	○：有効 ×：有効でないため見直す —：中間アウトカム未設定(未測定)				
	改善策	※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須					

具体的取組2-1-6 【保育サービスの充実】

26決算額 ー 円 27予算額 ー 円 28予算額 ー 円

計画	取組内容	業績目標（中間アウトカム）
	区内の保育ニーズに対応するために、保育所等の誘致をはかる。 所管局へのはたらきかけ 随時	保育所待機児童の解消 【撤退基準】 保育所待機児童が解消されなければ、事業を再構築する。
		前年度までの実績 平成27年度 平成27年4月1日時点待機児童数 11人 ・保育所本園整備 1園 平成26年度 平成26年4月1日時点待機児童数 21人 ・保育所本園整備 1園 ・小規模保育施設の開設 1カ所 平成25年度 平成25年4月1日時点待機児童数 19人 ・保育所本園整備 1園 ・保育ママの開設 3カ所

中高振返り	業績目標の達成状況	② (i)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退基準未達成		・出生数増加、世帯向けマンション建設による人口流入などにより、保育所入所申込み数の増加、区南部地域への施設誘致の未達成などから、待機児童の解消に至っていない。 ・全市を挙げた待機児童対策の取組みの中、区の課題解決に向けた検討を主体的に行い、こども青少年局等に提示していく。
	戦略に対する取組の有効性	×	○: 有効 ×: 有効でないため取組を見直す ー: 中間アウトカム未設定(未測定)

自己評価	取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	・区内の保育ニーズに対応するために、認可保育所5カ所、小規模保育施設10カ所の整備をこども青少年局に要望した。 ・全市的な待機児童解消に向け設置された待機児童解消特別チームのメンバーとして、課題解決策の検討・提案を行った。 ※参考 H28年度保育園開設 1ヶ所	出生数増加、世帯向けマンション建設による人口流入などによる保育所入所申込み数の増加への対応が必要。
	業績目標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「×」がある場合は必須
	平成29年4月1日時点での待機児童数 26人	③ 高まる保育ニーズに対応できるよう、未利用の公有地・公有施設の活用も含め、15カ所の保育所等の整備に向け、こども青少年局と連携しつつ、積極的に取り組む。
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退基準未達成	
戦略に対する取組の有効性	×	○: 有効 ×: 有効でないため見直す ー: 中間アウトカム未設定(未測定)